

第2回 はいく俳句せかいの世界

<夏の俳句>

五月雨を 集めてはやし 最上川	松尾芭蕉
さじなめて 童たのしも 夏氷	山口誓子
たたかれて 昼の蚊を吐く 木魚かな	夏目漱石
夏川を 越すうれしさよ 手に草履	与謝蕪村
夕立に 打たるる鯉の 頭かな	正岡子規

夏の有名な俳句をしょうかい紹介しました。言葉は少しむずかしいですが、なんとなく場面がばめん想像そうぞうできますね。

1 むしくいはいく

今回は虫食むしくい俳句に挑ちょうせん戦しましょう。

俳句の中に○があります。この○1つに1文字が入ります。虫に食われた言葉は、季節をあらわす言葉（季語）です。どんな文字が入るのか考えてみてください。

(れい)

〇〇〇〇に 打たるる鯉の 頭かな
〇の中に入る文字は「ゆうだち」です。
「夕立」夏の季節をあらわす季語です。
ここから問題です。

① 〇〇〇〇の ゆさりともせぬ 重たさよ
ヒント：季節は夏。清瀬でも有名です。

② 海の月 〇〇〇^{いろど}彩る 美しさ

ヒント：夏の夜におこなわれます。

③ 〇〇の道 雲の峰^{みね}より つづきけん

ヒント：黒くて小さく、行列の様に歩く。

④ ^{すず}涼しさを 〇〇〇〇1つ そよぎけり

ヒント：^{すず}夏の涼しげな音をだします。「そよぐ」とは、
そよそよと音をたて、わずかに^ゆ揺れ動くことです。

☆答え合わせは、第3回で行います。